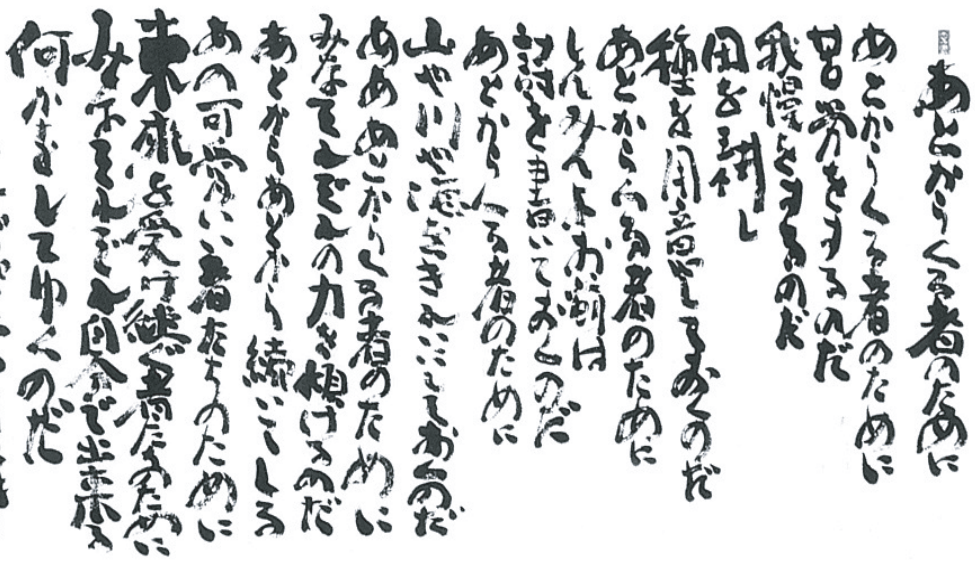
笑う門には福来る。

松山市勝山町1-18-10
(株)日本交通社
TEL(089)946-3911
発行人：中村剛志



坂村真民記念館（砥部町）

明朗・愛和・喜働

糸瓜忌

十九日は、結核を患って三十四歳の若さで死んだ正岡子規の命日「糸瓜忌」です。

子規は死の際に「糸瓜咲て　痰のつまりし　仏かな」「をととひの　へちまの水も　取らざりき」という辞世の句を詠んでいます。当時、糸瓜の汁は咳止めの薬として使われていました。

子規が病床に臥していた際に綴った随想『病牀六尺』に、「悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事であった」という一節があります。

死に至る病と向き合いつつか書かれた同書には、肉体的・精神的苦痛さえも客観的に見つめる冷静さと、貪欲なまでに生に執着した明るさがあります。

人生には様々な苦難が訪れますが、「どんなに絶望的な状況でも必ず希望はある」ということを、子規はその人生から教えてくれています。

苦難に直面した時こそ、希望の灯を燃え立たせましょう。苦しい時は苦しいと自覚し、そこから自らの中に秘める「反発心」を呼び起こしたいものです。

●反発心を希望に変えましょう

「職場の教養」より

宇和ちゃんの啖呵!!短歌

名古屋場所高校野球盆踊り
平和であるから九条あるから

あと幾度豊後水道渡るらむ
残る従姉も一人となりぬ

秋田緑の言の葉カード

「言の葉カード」ネットストア-greenti-
http://greenti.shop-pro.jp

結女さんの松山ミクロン

流星や
男の背に
浅き川

恋人の
短きあくび
九月来る

道しるべ

困っている時が飛躍のチャンス

目の前の壁を一つ一つ乗り越えて人は成長します。
困難はすべて発展の糧と受け止めて善処しましょう。